



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月10日

上場会社名 アマテイ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5952 URL <http://www.amatei.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 亮  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 川上 剛司 (TEL) 06-6411-1236  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,274	4.3	14	—	13	—	7	—
2022年3月期第1四半期	1,222	2.9	0	△96.8	△3	—	△12	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 7百万円(—%) 2022年3月期第1四半期 △12百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	0.59	—
2022年3月期第1四半期	△1.10	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	5,309	1,184	22.3
2022年3月期	5,231	1,183	22.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 1,184百万円 2022年3月期 1,183百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.50	0.50
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,837	15.5	31	—	25	—	14	—	1.22
通期	5,697	12.0	95	442.6	82	—	50	—	4.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	12,317,000株	2022年3月期	12,317,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	460,004株	2022年3月期	459,004株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	11,856,996株	2022年3月期1Q	11,797,996株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	10
(1) 生産、受注及び販売の状況	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が収束していく中で、経済活動が正常化の方向に向かいました。しかしながら第7波が襲来する可能性も残しつつ、ロシアのウクライナ侵攻の長期化、中国のゼロコロナ政策による経済活動の抑制等々により、海外商品の製造が不安定化し、それに伴うサプライチェーンの混乱、部品等の供給不足が深刻化、資源高を背景とした物価上昇、海外金利の上昇等による為替下落(円安)等々の影響が国内経済にも波及し続け、今後も当面このような環境下での事業活動を強いられるものと捉えています。

上述の状況の下、当社グループの主たる事業である建設・梱包向のうち建設向は、第1四半期における新設住宅着工戸数が21.8万戸(前年同期間比1.3%減)となり、テレワークが定着し始めて緩やかながら回復傾向となっていました。建設資材の価格上昇による住宅価格の高騰等により直近では減少傾向に転じています。

一方、電気・輸送機器向ねじは、連結子会社である株式会社ナテックの当第1四半期において、自動車向で半導体不足の影響がありましたが、家電や遊戯関係向けの需要に支えられ概ね堅調に推移しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,274百万円(前年同四半期1,222百万円、4.3%増)となり、その内訳は建設・梱包向が72百万円増(8.0%増)、電気・輸送機器向は20百万円減(6.4%減)であります。

売上総利益は、214百万円と前年同四半期に比べ18百万円(9.6%増)の増益となり、これは、建設・梱包向および電気・輸送機器向で販売価格の改定が徐々に進んだこと、および生産性向上等による製造コストの削減が主因であります。営業利益は、販売費及び一般管理費の抑制効果もあり14百万円(前年同四半期0百万円)と増益になりました。

経常損益につきましても、支払利息の低減等を通じて13百万円の利益(前年同四半期3百万円の損失)を確保しています。最終的な親会社株主に帰属する四半期純損益は、法人税等5百万円を差し引き、7百万円の利益(前年同四半期12百万円の損失)となりました。

#### (建設・梱包向)

建設・梱包向セグメントは、新型コロナウイルス感染症が沈静化に向かう中、2×4等の木造住宅着工戸数は前年同四半期に比べ減少し、当社販売数量も前年同四半期対比で減少となりました。収益面では、販売価格の改定が徐々に浸透し、当セグメントの売上高は975百万円と前年同四半期に比べ72百万円増(8.0%増)となり、固定費の低減、海外OEM品と国内生産品の販売比率変更等の結果、セグメント利益は前年同四半期に比べ34百万円増の60百万円となりました。

#### (電気・輸送機器向)

電気・輸送機器向セグメントは、連結子会社である株式会社ナテックの当第1四半期(1~3月)において、メインユーザーの自動車業界で、新型コロナウイルスの影響による部品・半導体不足が継続し、減産が実施されました。その様な事態を受けて、電気自動車やハイブリッド車関連のバッテリーや自動化に伴うモーター関連において使用されるライセンス品や特殊ボルトの需要が一時的に落ち込みました。この結果、当セグメントの売上高は、299百万円と前年同四半期に比べ22百万円減(6.9%減)となり、セグメント利益は前年同四半期に比べ15百万円減の6百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ・資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、5,309百万円(前連結会計年度末[以下「前年度末」という]比77百万円増)となりました。流動資産は、前年度末に比べ74百万円増加し、3,263百万円となりました。これは、受取手形が74百万円減少、商品及び製品が71百万円増加、売掛金が53百万円増加、仕掛品が32百万円増加、電子記録債権が10百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は、前年度末に比べ3百万円増加し、2,045百万円となりました。これは無形固定資産(ソフトウェア)の購入により14百万円増加、有形固定資産が12百万円減少したこと等によるものであります。

##### (負債)

負債合計は、前年度末に比べ76百万円増加し、4,124百万円となりました。流動負債は、前年度末に比べ135百万円増加し、3,009百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が前年度末に比べ134百万円増加したこと等によるものであります。固定負債は、前年度末に比べ58百万円減少し、1,115百万円となりました。これは、主に長期借入

金が前年度末に比べ55百万円減少したことによるものであります。有利子負債全体（短期借入金及び長期借入金）では前年度末に比べ1百万円減少、2,572百万円となりました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前年度末に比べわずかに増加し、1,184百万円となりました。これは、当第1四半期連結会計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益が7百万円、剰余金配当が5百万円あったことによるものであります。この結果、自己資本比率は、前年度末の22.6%から22.3%となり、1株当たり純資産は99.85円から99.94円となりました。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期以降の業績は、建設・梱包向は、新型コロナウイルス感染症の収束および物価の安定と共に個人消費が活性化し戸建て分譲・貸家を中心に新設住宅着工戸数は堅調に推移するものと想定しています。また非住宅建築物への木材活用が進むにつれ、当社製品に対する需要も増大することが期待されます。利益面では国内製品の製造コストの上昇、輸入商品の仕入価格高止まりの中、適切な販売価格への改定を継続実施する予定であります。

一方、電気・輸送機器向は、徐々に半導体・部品不足が解消され、自動車メーカーの生産水準も回復してくることが見込まれます。自動車に対する需要は堅調であり、自動車メーカーの生産回復に伴い当社子会社製品の出荷量も回復基調に転じるものと考えられます。

上記の状況によりまして、2022年5月10日に発表いたしました2023年3月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、修正致しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	569,057	566,858
受取手形	438,163	363,281
売掛金	830,983	884,929
電子記録債権	197,245	186,835
商品及び製品	680,276	751,521
仕掛品	221,810	254,425
原材料及び貯蔵品	233,588	241,166
前払費用	12,379	13,227
その他	5,178	876
流動資産合計	3,188,682	3,263,121
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	660,645	648,698
機械装置及び運搬具（純額）	462,619	455,356
土地	732,441	732,441
その他（純額）	39,530	46,597
有形固定資産合計	1,895,236	1,883,094
無形固定資産		
ソフトウェア	11,203	26,069
その他	0	0
無形固定資産合計	11,203	26,069
投資その他の資産		
投資有価証券	226	226
長期前払費用	13,687	11,724
繰延税金資産	22,051	22,146
その他	112,077	114,546
貸倒引当金	△11,796	△11,876
投資その他の資産合計	136,246	136,767
固定資産合計	2,042,686	2,045,931
資産合計	5,231,369	5,309,052

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	704,530	838,743
電子記録債務	248,860	216,162
短期借入金	1,600,989	1,655,001
未払法人税等	27,677	12,205
未払消費税等	62,106	14,970
未払費用	48,109	54,090
賞与引当金	24,905	27,642
役員賞与引当金	—	375
その他	156,583	189,874
流動負債合計	2,873,761	3,009,064
固定負債		
長期借入金	972,638	917,248
繰延税金負債	3,824	1,368
役員退職慰労引当金	19,947	22,247
退職給付に係る負債	173,649	170,611
資産除去債務	3,569	3,574
固定負債合計	1,173,629	1,115,049
負債合計	4,047,391	4,124,114
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	615,216	615,216
資本剰余金	76,223	76,159
利益剰余金	533,561	534,677
自己株式	△41,024	△41,113
株主資本合計	1,183,977	1,184,938
純資産合計	1,183,977	1,184,938
負債純資産合計	5,231,369	5,309,052

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	1,222,577	1,274,589
売上原価	1,026,669	1,059,806
売上総利益	195,908	214,782
販売費及び一般管理費	195,649	199,984
営業利益	259	14,797
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	515	—
雇用調整助成金	8,865	—
その他	864	1,457
営業外収益合計	10,247	1,459
営業外費用		
支払利息	3,900	3,172
休業手当	7,180	—
その他	3,273	0
営業外費用合計	14,354	3,172
経常利益又は経常損失(△)	△3,847	13,084
特別損失		
固定資産除却損	80	105
特別損失合計	80	105
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△3,927	12,979
法人税、住民税及び事業税	6,976	8,486
法人税等調整額	△107	△2,550
法人税等合計	6,869	5,935
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△10,796	7,044
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,143	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△12,940	7,044



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△10,796	7,044
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,252	—
その他の包括利益合計	△1,252	—
四半期包括利益	△12,049	7,044
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△14,192	7,044
非支配株主に係る四半期包括利益	2,143	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	建設・梱包向	電気・ 輸送機器向	計		
売上高					
外部顧客への売上高	903,122	319,455	1,222,577	—	1,222,577
セグメント間の内部売上高 又は振替高	75	1,701	1,776	△1,776	—
計	903,197	321,157	1,224,354	△1,776	1,222,577
セグメント利益	26,188	22,048	48,236	△47,977	259

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	48,236
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△47,977
四半期連結損益計算書の営業利益	259

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	建設・梱包向	電気・ 輸送機器向	計		
売上高					
外部顧客への売上高	975,486	299,102	1,274,589	—	1,274,589
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	975,486	299,102	1,274,589	—	1,274,589
セグメント利益	60,258	6,898	67,157	△52,359	14,797

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	67,157
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△52,359
四半期連結損益計算書の営業利益	14,797

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績及び仕入実績

当第1四半期連結累計期間における生産高及び仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高及び仕入実績(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	884,130	+10.2
電気・輸送機器向	246,818	+2.2
合計	1,130,948	+8.3

(注) 1 金額は、生産高は製造原価、仕入実績は仕入価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しています。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

## ② 受注実績

当第1四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	1,003,619	+10.6	358,494	+22.0
電気・輸送機器向	281,528	+1.0	96,399	△3.9
合計	1,285,147	+8.4	454,894	+15.4

(注) 1 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しています。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

## ③ 販売実績

当第1四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメント	販売高(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	975,486	+8.0
電気・輸送機器向	299,102	△6.4
合計	1,274,589	+4.3

(注) 1 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しています。

2 当第1四半期連結累計期間における主な相手先別の販売実績および当該販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
大東スチール株式会社	210,396	17.2	236,078	18.5

3 上記の金額には、消費税等は含まれていません。